

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第68号
2017年7月15日

日本看護歴史学会第31回学術集会のご案内

看護の政策過程の検証

—歴史から看護のエビデンスを探る—

日 時：2017年（平成29年）8月18日（金）・19日（土）

会 場：東京慈恵会医科大学医学部看護学科（東京都調布市 国領キャンパス）

大会長：田中 幸子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科）



日本看護歴史学会は平成29年で、30周年を迎えます。この記念すべき年の8月18日（金）、19日（土）、東京慈恵会医科大学（国領キャンパス）において「看護の政策過程の検証—歴史から看護のエビデンスを探る—」というテーマで学術集会を開催させていただくこととなりました。日本看護歴史学会誌第12号（2001年）をみますと、第12回大会テーマは「戦後看護教育の検証」として、金子光先生が、占領期の看護行政についてご講演をされています。また、日野原先生のご講演では「検証」を英語で表現すると、「evidence based」とするのが適当であろうとご説明されています。

看護の史実を紐解いて、その時何があったのか、誰が何をしたのか、ということ明らかにすることは看護の政策過程における方向性を決定づけた重要な真実の検証（エビデンス）になると考えました。つまり、史実を紐解き、人々の目に留まるように可視化することが看護の政策過程を分析するために必要であり、看護の歴史研究はそれに相応しい研究手法といえます。

将来、何か大きな問題が起きたときに、なぜこうなったのか？そのエビデンスはどこにあるのか？を理解することは、私たちが新しいものに惑わされることなく、看護の本質からぶれることなく、最善策を見出し、課題解

決に向かっていくために必要であると考えます。日本の老年人口割合は、26.6%（平成27年）から、38.4%（平成77年）になると推定されています（国立社会保障・人口問題研究所）。日本の超高齢化は世界にモデルがないと言われていいます。こういう時代だからこそ、過去に遡って、人々がどのように課題に立ち向かってきたのか、という歴史の知見が活かされるのではないかと思います。同時に私たちは歴史から何を学び、次世代に何を継承するのかを考えることも重要だと思えます。

今回は、看護の政策過程を振り返るために、「准看護婦（師）制度の政策過程を考える」をテーマにシンポジウムを開催します。シンポジストは、野村陽子先生（岩手医科大学）、似田貝香門先生（東京大学）、林千冬先生（神戸市看護大学）で、指定討論者として中島幸江先生（全国准看護師看護研究会）にご登壇いただきます。

また、歴史を記憶として人々の中に留める方法を特別講演として、渡邊英徳先生（首都大学東京）に「データを紡いで社会につなぐ、記憶を伝えるデジタルアーカイブス」、さらに最も重要でありながら、看護歴史の研究手法としてはあまり用いられてこなかったオーラルヒストリーの研究手法を教育講演として、梅崎修先生（法政大学）から「オーラルヒストリー・メソッドが拓く歴史研究の可能性」というテーマでお話していただきます。また、教育講演Ⅱとして「メアリー・E・リードと慈恵の初期看護教育」を芳賀佐和子先生（東京慈恵会医科大学）からお話していただきます。今年は日本看護歴史学会30周年を記念して、学会発起人の方々がどのような思いでこの学会を立ち上げられたのか、先人の看護歴史にかける思いを理事会セッションとして開催し、看護歴史を探求する意義を参加者の皆様と共有してまいりたいと思えます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

理事会セッション 1**「日本看護歴史学会の歴史」への証言（その2）
～学会の初期・中期から現在に至る変遷～**

話題提供者 山本 捷子（元・日本看護歴史学会理事）
高橋みや子（日本看護歴史学会理事）

第27回学術集会（2013年）では設立の経緯、発起人と準備委員会、第1回大会開催、分科会、初期の関連事業活動（記念テレホンカード、100年記念写真パネル展）について紹介した。今回は本会の初期から中期の状況について報告する。

主な内容は、初期の1. 学会の組織化（活

動方針と計画、規約、役員の名称など） 2. 学術集会の開催と運営方法 3. 機関誌、会報、講演集の変化に関して実物を提示しながら紹介する 4. 特色あるシンポジウムや鼎談会など 5. 研究報告の動向、今後への課題
大会テーマ、会長名、開催会場・日程は第15回より各講演集の最後ページに掲載している。

理事会セッション 2**看護における歴史研究 「看護技術史へのアプローチ」**

講師 鈴木 紀子（空海記念統合医療クリニック）
司会 滝内 隆子・黒田 裕子（研究活動推進委員会）

近年少しずつですが、本学会の学術集会における研究発表数や投稿論文数は増加傾向にあります。しかし、まだまだ学術雑誌としての日本歴史研究会誌に掲載される論文件数が少ない状況です。

その原因としてデータを論文にすることが困難な状況にあることが考えられます。

そこで、本委員会では、学会員の皆様の研究力の向上を目指して、5年計画で看護歴史研究について研修会を実施することにし、今年度は第3回目として鈴木紀子先生による「看護技術史へのアプローチ」をテーマに研修会を開催します。一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。

理事会セッション 3**「戦争と沖縄の看護」**

話題提供者 稲垣 絹代（聖泉大学地域・精神保健看護学教授）
司会 川嶋みどり（日本看護歴史学会理事長）

今回の「戦争と看護」に関する理事会セッションでは、話題提供者として稲垣絹代氏をお招きします。「いのちを守る看護にとって一番重要なのは平和」と語る氏は、幅広く平和に関する活動を展開されています。名城大学1学年の学生全員が沖縄戦の戦跡をめぐる、辺野古の浜で新基地建設反対運動について学ぶケアリング文化実習や、普天間飛行場の県外移設のための県民集会への名城大学看護学科の職を持つての教員・学生の参加、そして退職

後に結成した「いのちを守るナイチンゲールと医療者と卵の会」における辺野古の新基地建設に反対する退職者や現職の看護師、教員、福祉、リハビリ、学生たちのキャンパスワブ前での座り込み、救護活動、炊き出し、広報活動など。戦争によって徹底的に破壊を被った末に、長く米軍の占領下に置かれ、今も基地問題を抱える沖縄の現在と氏の活動を知り、参加者とともに平和そして看護職としてできることを考えたいと思います。

第31回学術集会プログラム

日時	プログラム		
8月18日 (金)	9:15～	開場・受付	
	9:45～	開会あいさつ	松藤 千弥 東京慈恵会医科大学学長
	10:00～	大会長講演	「看護の政策過程－占領期の看護改革を振り返って－」 田中 幸子
	10:50～	特別講演	データを紡いで社会につなぐ、記憶を伝えるデジタルアーカイブス 渡邊 英徳(首都大学東京システムデザイン学部准教授)
	11:50～	総会	
	12:40～	シンポジウム	『准看護婦(師)制度の政策過程を考える』 シンポジスト：「准看護婦問題調査検討会を振り返って」 似田貝香門(東京大学名誉教授) 「保助看法制定以降の准看護師制度の検討」 野村 陽子(岩手医科大学教授) 「准看護婦(師)制度問題を考える」 林 千冬(神戸市看護大学教授) 指定討論者：中島 幸江(全国准看護師看護研究会会長)
	14:50～	教育講演 I	「オーラルヒストリー・メソッドが拓く歴史研究の可能性」 梅崎 修(法政大学キャリアデザイン学部教授)
		テーマセッション	「看護婦碧川かたの顕彰碑－鳥取でのもりあがり－」 四井 幸子
		演題発表	口演 1
		演題発表	口演 2
演題発表		示説 1	
15:50～	理事会セッション 1	30周年記念セッション 「日本看護歴史学会の歴史」への証言(その2)～学会の初期・中期から現在に至る変遷～ 話題提供者：山本 捷子(元・日本看護歴史学会理事) 高橋みや子(日本看護歴史学会理事)	
	理事会セッション 2	看護における歴史研究「看護技術史へのアプローチ」 研究活動推進委員会 講師：鈴木 紀子(空海記念統合医療クリニック)	
	演題発表	口演 3	
	演題発表	示説 2	
17:10～	懇親会	東京慈恵会医科大学 ベラ食堂	
8月19日 (土)	9:30～	教育口演 II	「メアリー・E・リードと慈恵の初期看護教育」 芳賀佐和子(東京慈恵会医科大学客員教授)
		演題発表	口演 4
		演題発表	示説 3
	10:40～	演題発表	示説 4
		理事会セッション 3	「戦争と沖縄の看護」 話題提供者：稲垣 絹代(聖泉大学教授) 司会：川嶋みどり(日本看護歴史学会理事長)
	演題発表	示説 5	

参加費について

■ 事前申込期間：平成29年6月末日まで。それ以降は当日受付となります。

参加費	会員	非会員	学生※
事前申込	7,000円	8,000円	500円
当日受付	8,000円	9,000円	500円

懇親会参加費：4,000円(当日申込も可能)

8月18日(金)のお弁当注文：1000円(事前申込のみ)

※学生(大学院生は除く)は当日学生証をご提示の上、受付にてお申込みと参加費のお支払いをお願い致します。

郵便振替口座：00180-1-730821
口座名義：日本看護歴史学会第31回学術集会

連載 授業で歴史を教えよう(4)「わが校の看護歴史教育のとり組み」

中部大学生命健康科学部保健看護学科 堀 文子

当大学では、「看護の歴史」について、1年次春学期の「看護学概論」の初期の段階に、看護の歴史の概要を話し、ナイチンゲールやヘンダーソン、ケアリング等の看護の考え方を学ばせています。そこでは、社会状況や人々の暮らしなどの時代背景をふまえながら著書を読み、歴史的変遷のなかで看護の考え方も変遷していることを知ることから始まります。入学したての学生は看護学概論の中で看護について考える機会を与えられ、高校生から看護大学生になっていきます。

1年次秋学期の「看護学概論演習」では、「看護の歴史について理解する」という目標を達成するために、医学書院「看護史」、大学発行の「中部大学史」「学生便覧」「保健看護学科パンフレット」等を参考に、グループワーク・発表を通して、「看護とは何か、

看護の概念や定義はどのように考えられてきたのか、これまでの看護の道程や根拠を知り、これからの看護の方向性を探求することを目指します。また、「総合大学である中部大学・大学院ならびに保健看護学科における教育史を知り、母校発展のための課題を明らかにする」ことも目指しています。

具体的には学生を16グループに分け、テキスト(看護史)の第1章から第7章までを12グループで分担し、中部大学・大学院の歴史を4グループで担当します。2回のグループワークの中で収集した資料をもとに、プレゼンテーションの準備を行い、事前に各グループで作成した発表資料を全員に配布します。発表会を通じて、看護史の全貌を理解し、学生が看護専門職者としての将来のありようを考え、先人に学ぶ姿勢を身につけられるように期待しています。



新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 平成29年4月~平成29年5月入会

善福 正夫 (17001)	四井 幸子 (17002)
毛利 聖子 (17003)	今村 圭子 (17004)
北村 周美 (17005)	大河内敦子 (17006)
高岸 壽美 (17007)	大村 倫子 (16708)
今坂 鈴江 (17009)	上野 理恵 (17010)
斎藤 圭 (17011)	堀 文子 (17012)
木村 節子 (17013)	阿部奈緒美 (17014)
川崎 久子 (17015)	前信 由美 (17016)
田村 和恵 (17017)	



お知らせ

■事務局から

平成29年度会員動向(平成29年5月末現在)

1. 会員数	321名
2. 入会者	17名
3. 退会者	3名

編集後記

第2次世界大戦で私たちは多くのことを学んだはずなのに、今も戦争やテロにより、市中の人々の生活は脅かされています。人間の叡智とは何か、リーダーは何をするべきか等など、「歴史から学ぶ」大切さを実感する毎日です。(れ)

日本看護歴史学会会報 第68号

企画・編集 三上 れつ(中部大学)
川原由佳里(日本赤十字看護大学)

発行責任者 鷹野 朋美(事務局会報担当)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012
東京都渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学 鷹野 朋美
TEL 03-3409-0190
FAX 03-3409-0589(代表)
e-mail rekishi@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>